

地域間幹線系統(長久手市)

資料1-1

補助対象事業者等		事業概要		前回の事業評価結果反映状況	事業実施の適切性	目標効果達成状況						複数市町村をまたぐ系統/幹線系統としての役割	事業の今後の改善点			
運営主体	運行事業者	系統名	運行区間			A達成 B未達成 C目標の半数に満たず (人)	輸送量(人)		1日あたり		収支率(%)					
						R4計画	R4実績	平均乗車密度	運行回数	R3実績	R4実績					
日進市	名鉄バス(株)	くるりんばす五色園線	市役所-長久手古戦場駅-市役所	令和12年度までを計画期間とした新たな公共交通計画を策定。計画に基づき全面的な路線改正案の検討を実施。市イベントで公共交通利用促進を行った。	A	事業計画とおりの運行回数が確保されている	B	目標58,220 結果57,234 令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響で通勤需要の変化が起こり、利用者数が減少している。令和4年11月のジブリパーク開園による新たな移動需要にも対応するべく、利用促進等を実施していく必要がある。	18.8	18.8	1.9	9.9	15.10	14.10	市町村をまたぐ利用者は月平均3,365人で全体の70.6%を占める。長久手市をはじめ、名古屋市や豊田市への通勤・通学・通院・買い物の足として幅広く利用されている。	市内巡回バスが幹線交通、福祉交通の両方の役割を担っており、うまく機能していない部分がある。これまでの各種調査結果や地域説明会等を用いながら全面的な路線改正案の検討を実施していく。また、くるりんばすグッズを活用した周知活動を実施していく。
名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	日進中央線	赤池駅~日進市役所~長久手古戦場駅	HP、スマートフォンでの時刻検索システム、バスロケーションシステムの提供や、コンテンツプロバイダへのデータ提供を行った。市HPや、路線図、時刻表及び市イベント等で公共交通利用促進策を展開した。	A	台風19号の影響により、5本の運休となったが、それ以外は所定の確保計画どおりの運行が実施されている。	A	目標92,160 結果126,684 利用者数は126,684人(前年比137.5%)となり、目標利用者数に達した。新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、徐々に通勤通学での利用者が回復してきたと考えられる。然しながら、今後、リモートワーク等による生活様式の変化の影響は一定数受けることが想定される。	52.5	63.0	4.2	15.0	52.26	56.93	市町村をまたぐ利用者は月平均2,880人で全体26.2%を占める。現金、ICSFの定期外74.0%。リモネ駅及び大規模商業施設が近接することから、2停留所のみで長久手市と跨ぐ利用が約3割と相対的に多い。	新型コロナウイルスの影響により変化した新たな生活様式において、バスが求められるサービス水準を調査・分析する必要がある。継続してHP、スマートフォンでの時刻検索、バスロケーションシステムの提供等を行う。また高齢者用定期券ゴールド・シルバーバスのPRを積極的に実施し、昼間帯の利用促進を図る。
名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	愛知医科大学病院線	長久手古戦場駅~愛知医科大学病院~尾張旭向ヶ丘	HP、スマートフォンでの時刻検索システム、バスロケーションシステムの提供や、コンテンツプロバイダへのデータ提供を行った。バスルートマップを転入者用パンフレットに同封したり、イベントを開催したりして、公共交通の利用促進を図った。	A	台風19号の影響により、1本の運休となったが、それ以外は所定の確保計画どおりの運行が実施されている。	A	目標39,549 結果47,636 利用者数は47,636人(前年比120.4%)となり、目標利用者数に達した。新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、徐々に通勤通学での利用者が回復してきたと考えられる。然しながら、今後、リモートワーク等による生活様式の変化の影響は一定数受けることが想定される。	24.3	16.2	1.4	11.6	22.96	23.60	市町村をまたぐ利用者は月平均2,730人で全体54.8%を占める。現金、ICSFの定期外74.7%。市外から愛知医科大学病院への利用が多い。	新型コロナウイルスの影響により変化した新たな生活様式において、バスが求められるサービス水準を調査・分析する必要がある。継続してHP、スマートフォンでの時刻検索、バスロケーションシステムの提供等を行う。また高齢者用定期券ゴールド・シルバーバスのPRを積極的に実施し、昼間帯の利用促進を図る。
名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	本地ヶ原線	藤が丘~愛知医科大学病院~瀬戸駅前	HP、スマートフォンでの時刻検索システム、バスロケーションシステムの提供や、コンテンツプロバイダへのデータ提供を行った。バスルートマップの転入者への周知や、イベントの実施により、公共交通利用促進を図った。	A	計画どおり運行が実施された。	A	目標73,902 結果101,288 利用者数は101,288人(前年比137.1%)となり、目標利用者数に達した。新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、徐々に通勤通学での利用者が回復してきたと考えられる。然しながら、今後、リモートワーク等による生活様式の変化の影響は一定数受けることが想定される。	31.5	34.0	4.2	8.1	45.80	58.46	市町村をまたぐ利用者は月平均7,410人で全体85.2%を占める。現金、ICSFの定期外82.2%。藤ヶ丘駅から愛知医科大学病院への通院利用が多い。	新型コロナウイルスの影響により変化した新たな生活様式において、バスが求められるサービス水準を調査・分析する必要がある。継続してHP、スマートフォンでの時刻検索、バスロケーションシステムの提供等を行う。また高齢者用定期券ゴールド・シルバーバスのPRを積極的に実施し、昼間帯の利用促進を図る。
尾張旭市	豊栄交通(株)	尾張旭市営バス(東ルート)線	市役所~愛知医科大学病院~市役所	利用者懇談会及びアンケートを実施し、利用者ニーズの把握に努めた。ルートマップを転入者用パンフレットに同封し、市内の商業施設や病院に配布。また、GTFSデータを更新し祝日の移動等に対応。イベントの実施により公共交通の利用促進を図った。	A	計画どおり運行されている。	A	目標100,000 結果101,088 利用者数は101,088人(達成率101.1%)となり、目標利用者数に達した。ウイズコロナの生活様式の定着等により、利用者数は前年度比で1.3%増加しており、徐々にではあるが感染拡大前の利用状況に戻りつつある。	63.4	64.9	4.3	15.1	15.90	14.80	市町村をまたぐ利用者は月平均1,276人で全体7.7%を占める。広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。	買い物や通院などによる午前の便に利用が集中する。当市のバスは着座が原則のため、少ないながらも乗りこぼしが発生していることから、利用者ニーズに即したダイヤを検討する必要がある。利用者ニーズに沿った運行計画の再編を検討する。また、市イベントの実施等、引き続き利用促進に取り組む。
尾張旭市	豊栄交通(株)	尾張旭市営バス(西ルート)	市役所~愛知医科大学病院~市役所	利用者懇談会及びアンケートを実施し、利用者ニーズの把握に努めた。ルートマップを転入者用パンフレットに同封し、市内の商業施設や病院に配布。また、GTFSデータを更新し祝日の移動等に対応。イベントの実施により公共交通の利用促進を図った。	A	計画どおり運行されている。	A	目標110,000 結果110,112 利用者数は110,112人(達成率100.1%)となり、目標利用者数に達した。ウイズコロナの生活様式の定着等により、利用者数は前年度比で4.2%増加しており、徐々にではあるが感染拡大前の利用状況に戻りつつある。	73.9	77.0	5.1	15.1	17.00	16.60	市町村をまたぐ利用者は月平均2,116人で全体11.6%を占める。	買い物や通院などによる午前の便に利用が集中する。当市のバスは着座が原則のため、少ないながらも乗りこぼしが発生していることから、利用者ニーズに即したダイヤを検討する必要がある。利用者ニーズに沿った運行計画の再編を検討する。また、市イベントの実施等、引き続き利用促進に取り組む。

補助対象事業者等		事業概要		前回の事業評価結果反映状況	事業実施の適切性		目標効果達成状況						複数市町村をまたぐ系統/幹線系統としての役割	事業の今後の改善点	
運営主体	運行事業者	系統名	運行区間		A B C	A B C	輸送量(人)				収支率(%)				
								R4計画	R4実績	平均乗車密度	運行回数	R3実績	R4実績		
豊鉄バス(株)	豊鉄バス(株)	新城名古屋藤が丘線	新城市民病院西～長久手古戦場駅	令和3年10月1日に、道の駅もつくる新城(正面)に乗り入れ、また、それに合わせ利用実態に合った形でダイヤ改正を実施した。通勤・通学の利用客の利便性向上の為、関係市と協力し令和3年1月から11枚綴りの回数券を引き続き発売した。	A	A	目標7,650 結果15,662 前年比152.0%で、目標に対しても204.7%で目標を達成することができた。主な要因としては、普段使いの通勤・通学の利用者だけでなく、沿線市にて実施した利用促進キャンペーンにより、新規利用客の増加につながったと考えられる。	21.3	16.2	5.6	3.0	21.80	36.00	市町村をまたぐ利用者は月平均15,662人で全体100%である。高速乗合バスとして新城市と名古屋市及び長久手市を結ぶ路線で、すべての利用者が市を跨ぐ利用しており広域的な路線の役割を果たしている。利用者は、新城市から名古屋への通勤・通学や名古屋圏から新城市への観光で利用されている。	奥三河地域住民への周知を充実させ、田口新城線組み合わせた、利用促進を図る必要がある。新城市から令和4年11月に開園したジブリパークへの移動手段として便利であることを周知するため、ホームページ等でPRしていく。名古屋圏からの利用者を確保するため、市内観光施設と連携し、新たな企画切符の発売に向けて検討していく。